



トピックス1

令和4(2022)年度患者満足度調査の結果について



当センターでは、9～11月にかけて、サービス向上、職員の意識改善につなげるために、患者さんや家族の皆さんにアンケートを実施しましたので、その結果の概要※を報告します。

※回答数が10件以上の項目が対象となっています。

1 外来部門 (回答数：117名 調査期間：9/1～14)

満足度の上位5項目		満足 やや満足 の割合 (%)
1	医師の言葉づかい	92.2
2	説明のわかりやすさ	90.5
3	診察の満足度	87.8
4	薬剤師の対応について	87.5
5	看護師への話しやすさ	86.7

満足度の下位5項目		満足 やや満足 の割合 (%)
1	診療までの待ち時間	48.7
2	看護技術	64.9
3	看護師の適切な言葉かけ	73.2
4	プライバシーの保護	75.0
5	リハビリ意欲の動機付け	76.2

- ・質問18項目のうち12項目について8割以上の方から「満足・やや満足」との回答がありました。
- ・満足度の低かった「診療までの待ち時間」などについては皆様にご満足いただけるよう改善に努めてまいります。

2 入院部門 (回答数：75名 調査期間：9/1～11/30)

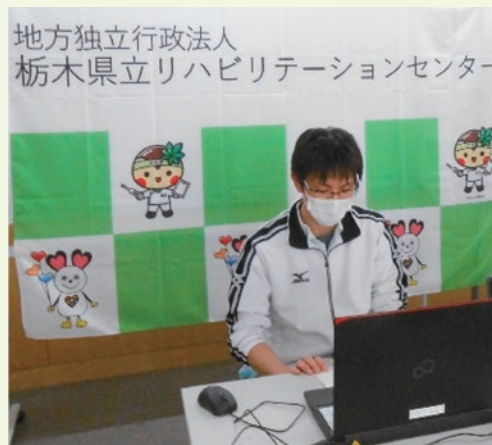
満足度の上位5項目		満足 やや満足 の割合 (%)
1	療法士の言葉づかい	85.2
2	リハビリ意欲の動機付け	82.7
2	トイレ・洗面台の清掃	82.7
4	看護師への話しやすさ	79.4
5	リハビリの満足度	78.7

満足度の下位5項目		満足 やや満足 の割合 (%)
1	入院生活への説明	52.4
2	食事の味	54.6
3	食事のメニュー	56.0
4	受付・会計・警備員の対応	57.5
5	デイルームの雰囲気	59.7

- ・満足度の低かった「入院生活への説明」「食事」などについては、皆様にご満足いただけるよう改善に努めてまいります。
- ・自由意見でいただきましたご意見・ご要望については、今後のサービスおよび運営改善の参考にさせていただきます。

トピックス2 とちリハ病院研修会を開催しました

昨年11月21日に令和4年度『とちリハ病院研修会』を開催しました。一昨年及び昨年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から開催を見送りましたが、本年度は何とか実施したいとの思いからオンライン形式で開催することができました。



テーマ「脳卒中と転倒」

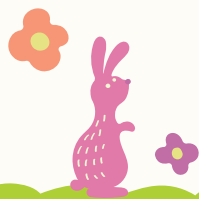
脳卒中と転倒 ～転倒につながる症状～	リハビリテーション科医師	中澤征人
脳卒中片麻痺と転倒 ～右片麻痺と左片麻痺の違い～	理学療法士	須永和寿
転倒と認知機能 ～主に認知症に関連して～	作業療法士	加藤由里
病棟における転倒予防への取り組み ～安全用具の紹介～	看護師	菊地友香

介護事業所、医療機関、行政機関等に従事されている様々な職種の方39施設128名の参加がありました。転倒の概論から転倒につながる要因、麻痺の違い、認知症との関連、さらに転倒予防の取り組みと今後の活動に活かしてもらえるような研修会でした。

今後とも、当センターの専門性を活かし、地域の支援者の方々へのノウハウの還元や情報提供を意識した研修会を企画していきたいと思っております。

研修会へのご意見やご要望は随時受け付けていますので、地域医療連携室までご連絡をお願いいたします。





トピックス3 退院後の外来リハビリテーションについて



今回は、退院後の外来リハビリテーションについてご紹介します。

入院中は、機能的な回復を目指しつつ、退院後の生活を具体的にイメージしながらリハビリテーションを実施します。その方に合わせた福祉用具の導入や、手すりの設置など退院後の生活の準備も併せて行っています。

退院後の外来リハビリテーションは、退院後の生活が早期に安定することを目標にします。まずは、ご自宅での生活の様子、介助方法、設置した手すりや福祉用具についてなど具体的にお聞きします。困っていることがあれば、ご本人やご家族と相談しながら、一つ一つ解決策を検討していきます。また、さらなる機能回復への取り組みや、自主トレーニング方法の提案、必要な方には、自動車運転再開の手続きや復職に向けた助言なども行っています。経過の中で、機能の回復や、生活の幅が広がり、その方らしい生活に近づいていくのが感じられるのは嬉しくもあり励みにもなります。

制度上、医療保険でリハビリテーションを実施できる期間は限られています。そのため情報交換を行い、次の介護保険でのリハビリテーションにつないでいくことも役割となります。外来リハビリテーション終了時には、「退院後の生活の相談ができ、不安が減った。」「自主トレーニングの方法が分かった。」「話を聞いてもらえて良かった、焦らず生活したい。」などの感想をいただき、入院から退院後の生活へ移行する期間の役割を果たすことができているのではと感じています。

私たちスタッフにとっても、入院中のリハビリテーションが退院後の生活に結びついているか、足りなかったことはないかを考える貴重な機会となっています。外来での様子を入院担当スタッフとも共有しながら、入院・外来ともに、より良いリハビリテーションが提供できるよう、今後も努めていきます。



クリスマス会を開催しました！

こども療育センターでは2022年最後のイベント、クリスマス会を開催しました。みんなと集まれるのは年に数回しかなく、とても貴重な時間でした。感染対策もある中でできることを考え、バイオリニスト“きんちゃん”をお招きしてみんなで楽器演奏をしたり、なかなか会えないこども発達支援センタースタッフの出し物を見て特別感を味わいました。

その中でもこどもたちが指折り数えて待っていたこととは！「サンタさんきてくれるかなあ？」でした。安心して下さい！今年もたくさんのプレゼントを抱えてやってきてくれましたよ～！なんとここまでするのに1週間もかかったそうです。

お昼はピザパーティー、おやつはケーキ会食と普段味わえないものをムシャムシャと頬張るこどもたちの姿を見て、保育士は、次はなにをしたら喜んでくれるかな？とネタ探しがとまりません（笑）みんな1日大喜びで夢のような時間を過ごすことができました。



編集後記

令和4年度最後の発行になりました。

利用者の皆さまが当センターで安心して過ごせるよう、日々熟考していきますので、よろしくお願ひします。

(発行) 地方独立行政法人
栃木県立リハビリテーションセンター
管理部総務課

〒320-8503 宇都宮市駒生町3337-1
TEL 028-623-6101 (代表)
FAX 028-623-6151
ホームページ <https://tochigi-riha.jp/>

